



1. 新校長着任の挨拶

向暑の候、保護者の皆様方におかれましては益々御清祥のこととお喜び申し上げます。
この度、帝京ロンドン学園の校長職を拝命いたしました、濱田幸裕と申します。本学園には
2020 年 4 月から 2022 年 8 月まで奉職しておりましたので、今回で 2 度目の赴任となります。

経緯を簡単に申し上げますと、福岡県の県立高校で約 40 年勤務し、校長として退職した後、
別の大学で働く傍ら系列の IB 校での顧問を兼務しておりましたところ、2019 年に帝京ロンドン
学園のお話をいただいた次第です。2022 年の帰国後は、帝京大学で本年 5 月まで勤務させていただいておりました。



前回の赴任時は、皆様御存知のとおり、新型コロナウイルスが全世界に猛威を振るっている最中であり、英国で全国規模
のロックダウンなど、様々な施策が始まる中、生徒の皆様の学力と健康をいかに保証するか、に大変苦慮したことを覚えてお
ります。一例を挙げますと、当時学園のスクールバスは近隣の地下鉄終着駅 Uxbridge の往復のみでしたが、2021 年に
学校ロックダウンが解除となり対面授業が再開した際、通学生の皆様が公共交通機関を利用するリスクを考慮し、アクトン
地区からのスクールバス運行を始めました。これが大変好評で今日に至る次第です。

前回赴任時の主命題であった、在外教育施設への IB（インターナショナル・バカロレア）導入という、日本で前例のない試
みを、コロナ禍という特殊な状況下で始めた訳ですが、以前顧問として勤務しておりました IB 校のコーディネーターに多くの
助言をいただきながら準備を進めることができ、2022 年 12 月に晴れて認可されました。そのコーディネーターこそが、私の
帰任時に校長職を引き継いでいただいたネルソン前校長先生です。

着任の御挨拶メールでも申し述べましたが、我々は現在、インターネットはもとより AI の急速な発達により、世界中どこに
いようと単に知識を得るだけなら、それが極めて容易な時代に生きています。だからこそ、日本を離れ英国で学ぶ生徒の皆
様には、グローバルスタディーズ・IB・サッカー・アートと学ぶ内容は異なりますが、3 年間の学園生活をとおして、混迷の時代
を逞しく生きる術となる、自己の確かな経験に裏付けられた、世界を俯瞰できる、柔軟且つ揺るぎない知識と価値観を身
に付けていいただきたいと願っています。

4 年間の不在の間に、学園は大きく前進しておりますが、ネルソン前校長先生が築かれた確固たる土台をもとに、帝京
ロンドン学園の更なる発展のため、微力ながら尽力する所存でございますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

帝京ロンドン学園 校長 濱田 幸裕

2. 研修旅行（研修旅行担当より）

1 年生（ブライトン）



6 月 7 日（日）～12 日（金）にブライトン研修旅行を実施しました。今年もイギリス南部の海辺の街・ブライトンにて、6
日間のホームステイと語学学校での英語学習を行いました。

今回の研修旅行期間中は曇りの日が多く、例年に比べて肌寒さを感じる天候となりましたが、予定していたプログラムは大きな変更なく実施することができました。初日は緊張した様子が見られた生徒たちでしたが、現地での生活や学習を通して次第に環境にも慣れ、積極的に英語でコミュニケーションを取る姿が多く見られるようになりました。

今年は4つのクラスに分かれて授業を受け、それぞれのレベルやテーマに応じた学習に取り組みました。クラスによっては、国籍や年齢の異なる留学生と一緒に学ぶ機会があり、授業内外を通して英語で交流する場面が数多く見られました。また、環境問題について学びを深め、最終日にグループごとにプレゼンテーションを行うクラスもあり、生徒たちは英語で自分たちの考えを発表する貴重な経験を積むことができました。

研修期間中は大きな問題もなく、全員が無事に全日程を終えることができました。この研修旅行で得た経験が、生徒たちの今後の学習や将来への自信につながることを期待しています。

最後に、研修旅行の実施にあたり、保護者の皆さまには準備や送迎等のご協力をいただき、心より感謝申し上げます。



〈生徒の感想より〉

●語学学校の感想

・語学学校では、「完璧に伝える」のではなく、「伝えようとする気持ち」が大切だと気づきました。完璧な文法が出来ていなくても、伝えたい気持ちと勢いさえあれば、相手は何を伝えたいか気づいてくれます。英語ができなくても、そうやってコミュニケーションをとりました。家に帰ってから、先生が言っていた知らない単語を調べると、次の授業で先生の言っていることが少しわかるようになるのが嬉しかったです。なにより、英語が嫌いな私でさえも授業が楽しいと思えたのが嬉しかったです。

・先生が優しく、わからない単語があっても英語で分かりやすく教えてくれたのでよかったです。また、プレゼンテーションもあり、そこで言葉が出てこない時でも優しく見守ってくれたので、英語の上達につながりました。

・クラスメイトの国籍、年齢がみんなバラバラなのが新鮮だった。アルファベットは世界共通なものだと認識していたから、書き方が国ごとに大きく異なっているのが衝撃だった。発音のなまり方も初めて聞くなまり方の人が多くて聞き取るのが難しかった。
・トルコ、ドイツ、サウジアラビアの人などに授業で学んだ環境問題や気候変動などについて質問したり、日本や相手の人の国について話したり、ワールドカップについて話したりした。また、英語の単語などを英語だけで説明されて理解しないといけなかったことが難しかった。



●ホームステイの感想

・私自身、ホームステイは人生初めての経験だった為、初日は不安ばかりで、ホームステイ先に着いて、自分に用意された部屋に一人になった瞬間ホッとしたのか、家が恋しくなったのか少し泣いてしまった場面もあった。けれどもホストファミリーはとても良い人達で、話しかても聞き取りやすかった為、普段の学習が実際の場面で役立っているのだなと感じたり、ホームステイという体験をしたことで自立心が大きく成長したと感じられた1週間だった為、貴重な経験だったなと感じた。

・ホームステイをするまでは、英語を話すのに少し抵抗があったけど伝わらなくても最後まで伝えようとするとしっかり最後まで聞いてくれたので、英語への抵抗感が少し減りました。そして、最後の方には自分から質問することができるようになってホームステイはとて面白い経験になり楽しい時間を過ごすことができました。

・初日、とても緊張していたけれど玄関でホストマザーが温かく迎え入れてくださり、ルールの説明も丁寧でとても安心した。夜ご飯中は自分のことばかり話すのではなく、相手にも質問をして会話のキャッチボールができるように気を付けていた。最終日はホストファミリーと別れることが寂しく、よい出会いをしたと思った。感謝はいつでもどこでも大切なのだと改めて実感した。

・何か言いたいことが言えないときや、つかかってしまったときにも優しく対応してくれて、「こう言いたいの？」と聞き返してくれたり、伝えられるまで待ってくれたりしたため、とても話しやすかったです。子供たちと一緒に遊んだり、日本のお菓子を食べたりできてとても充実した一週間でした。最後にはお手紙渡すこともでき、別れるのが寂しかったです。



● 研修旅行での学び&印象に残っていること

・新しい土地で異なる言語で不安もいっぱいあったけど、事前にいろいろ調べて計画を立てたりして準備をたくさんしたので意外とスムーズに行動できたのかなと思った。また、今までは親と一緒に買い物していて一人だと買い物できるかなー、と不安だったけれど意外とできて、何事も挑戦だなとも思った。

・英語に苦手意識が強かった私でも、とりあえず知っている単語を並べて話すとなんとか伝わりました。黙っておどおどするより話そうとしているのがわかれば伝わりました。

・研修旅行での1番の学びは、知らない街でどのように現在地から目的地に行くかを自分で調べることです。地図を使って、どのようにハウスから語学学校まで行くかを調べ一番早い経路はなにか調べました。方向音痴の私にとってはとても良かったです。印象に残ったことは自由時間の時です。みんなで海に行ったり、カフェに行ったり、服を見に行ったりして友達との絆をより深めることができました。

・自由行動でブライトンのスタジアムに行けたのが良かったです。語学学校やホームステイもすべてが印象に残っています。



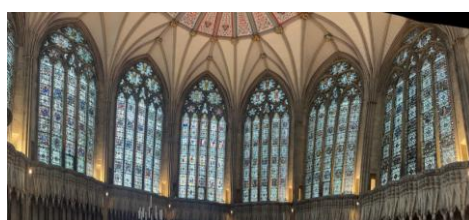
2・3年生（イングランド北部とスコットランド）



6月8日（月）～12日（金）に、2・3年生はイングランド北部およびスコットランドへの研修旅行に出かけました。当初は全日程で雨予報となっていたのですが、要所で晴れ間ものぞき、肌寒さはあったものの、総じて天候には恵まれた1週間となりました。研修旅行は、イングランド北部の大都市・マンチェスターとリバプールから始まりました。マンチェスターの科学博物館では、歴代のゲーム機を実際に体験し、リバプールではビートルズ博物館を見学して、彼らの偉業について学びました。2日目は、歴史ある街ヨークを散策。まるでハリー・ポッターの世界に迷い込んだかのような美しい街並みに、生徒たちは感嘆の声を上げていました。3日目は、海辺の風光明媚な街ワイトビーで、「イギリスで一番おいしい」と評判のフィッシュ・アンド・チップスに舌鼓を打ち、その後、ビーミッシュ・リビング・ミュージアムでは、19世紀から20世紀初頭の街並みや人々の暮らし

を体感しました。4 日目は、あいにくの雨模様の中、帝京大学ダラム校を訪問し、帝京大学の学生と交流しながら美しいダラムの街を散策しました。その後、「国境」を越えてエジンバラへ向かい、スコットランド伝統舞踊を楽しみながらのディナーやエジンバラ城の見学、チョコレート作り体験など、充実したプログラムを満喫しました。最終日は列車でロンドンへ戻り、それぞれの帰路につきました。

産業革命の遺産が色濃く残るイングランド北部と、独自の文化や伝統を受け継ぐスコットランドを実際に訪れた生徒たちは、イギリスの多様性と歴史の奥深さに触れ、多くの学びと感動を得たようでした。



3. 生徒会役員選挙（生徒会担当より）



6月22日（月）に生徒会役員選挙がおこなわれました。
今年度の会長、副会長、会計、書記に当選されたメンバーの皆さんには、よい学園づくりを期待しています。



4. KBK visit to St Bernards（KBK 担当より）

The KBK members went to St Bernard's school and played cricket. Their students had prepared a lot of delicious sweets to eat during the game, including scones with jam. The favourite seemed to be the brownies which were hand made by one of St Bernard's students. While they ate and played cricket, they had the opportunity to chat in Japanese and English. Our students said it was a lot of fun and that they are looking forward to hosting next time.



5. Careers dept: UCL campus tour（進路担当より）



On June 17, we visited University College London (UCL), one of the world's leading universities, with more than 50,000 students enrolled. Several students who have interest in universities in the UK took part in the campus tour, led by a Japanese student currently studying at UCL. It was a great opportunity to learn about the campus, its facilities, and the wide range of academic departments and programs.

We also learned about UCL's strong commitment to diversity and inclusivity. The opportunity of being able to join a variety of clubs and societies, make friends across different departments, and being able to pursue individual interests made the university particularly appealing to us.

6. 各コースより

サッカーコース

サッカーのオフシーズンを利用し、この期間は「Teikyo UK」のチームとして地域の7人制サッカーリーグに参戦しました。普段とは一味違う、サッカーコースの生徒たちだけでプレーする楽しさを味わいながら、リーグ最終順位3位という立派な成績を収めることができました。

また、中間考査に向けた勉強の息抜きとして、フットゴルフの体験にも行ってきました。フットボールとゴルフ、どちらもイギリス発祥のスポーツということもあり、生徒たちはイギリスならではのスポーツ文化を存分に満喫していました。

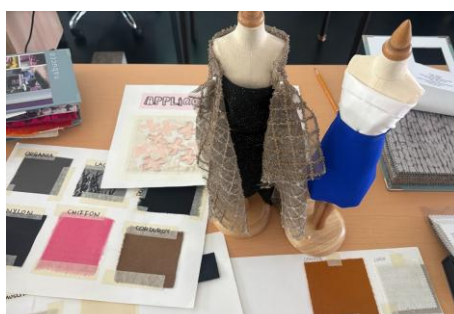
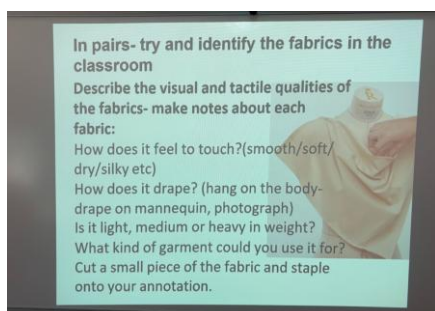


Current standings									
Pos	Club	Played	Won	Drawn	Lost	GF	GA	GD	Points
1	IV7's	10	9	0	1	69	49	20	27
2	Inter ya net	10	6	0	4	61	50	11	18
3	Teikyo Fc	9	4	1	4	42	37	5	13
4	Old But Cold	9	3	1	5	47	47	0	10
5	Sunday rejects	10	3	1	6	51	57	-6	10
6	Atletico SL	10	3	1	6	51	71	-20	10

アートコース

ISCA による「Fashion & Textile」の授業では布地の違いについて学び、異なる素材を組み合わせたコーディネート課題に取り組みました。別の曜日の「海外から見るジャポニズム」の授業では、削った部分に金を沈めて定着させる技法を用いた「沈金盆」が完成し、パトリシア先生への英語のプレゼンテーションに臨みました。初めて見る生徒たちの伝統工芸作品にパトリシア先生も関心を示され、生徒たちとの間で活発な質疑応答が行われました。

現在は鉛筆デッサンに取り組んでおり、それぞれが選んだモチーフの制作に励んでいます。デスケル（構図決定器）を用いてエスキース（下絵）を描き、構図を決めた後は微調整を繰り返しながら描き進める作業です。本課題は、鉛筆の使い方だけでなく、「角度や明度の適切な表現」を常に思考し続ける必要があるため、集中力や根気、そして対象を客観的に観察する力が養われています。





7. IB Diploma Programme (IBDP 担当より)

ブライトン研修旅行を終えた次の週から、IBDP (International Baccalaureate Diploma Programme) の選択を希望・検討している高校 1 年生グローバルスタディーズコースの生徒を対象に、IB 体験授業を実施しました。

限られた時間ではありましたが、生徒たちは実際の IB 科目の説明や学習活動に取り組みながら、IB ならではの学びを体感する貴重な機会となりました。これまで慣れ親しんできた学習スタイルとは異なるアプローチに戸惑いを感じた生徒もいたかもしれませんが、自ら考え、対話し、多角的に物事を捉える IB の学びに触れることで、今後の進路選択を考える上での大きな参考になったことと思います。

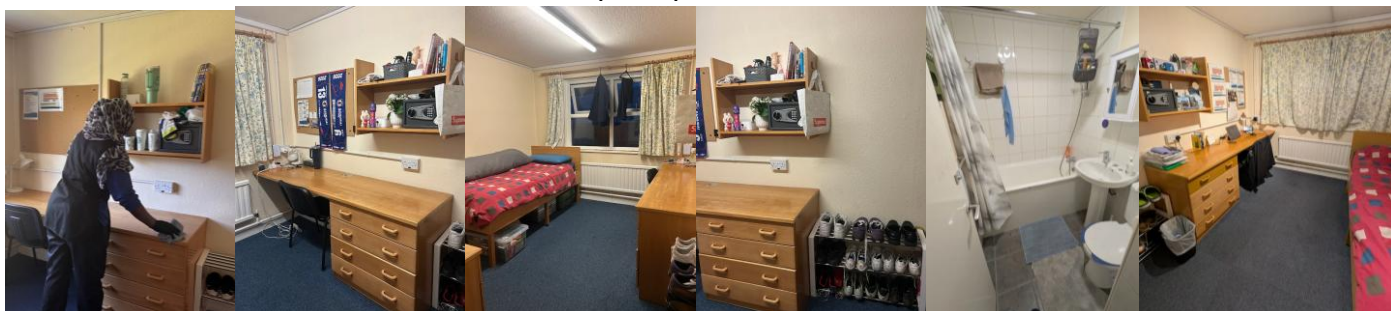
なお、今年度の体験授業への参加者数は、実施以来最多を記録しました。生徒たちの関心の高さがうかがえる結果となっています。

更に今後は、説明会や個別面談などを通してさらに、理解を深めながら進路選択を進めていく予定です。果たしてここから何名の IB 生が誕生するのか——乞うご期待です。



8.寮便り

寮では毎週月曜日に寮監がそれぞれのお部屋の様子を確認して回るルームチェックを行っています。平日は清掃スタッフがゴミの回収や掃除機かけ、バスルームの消毒を行っています。整理整頓は寮生の担当です。自分の過ごす部屋を清潔にし、学習に取り組みやすい環境を維持できるよう、寮ではチェックリストをつくり寮生の自立を応援しています。今回はいつもお部屋が整理整頓されていて、ルームチェックで Very Very Good の評価を受けた寮生のお部屋を紹介します！



また、今月始まったサッカーワールドカップの試合を教室のスクリーンで希望者たちが集まって観戦しました。日本代表戦とイングランド代表選は大盛り上がりでした。仲間たちと暮らす寮だからこそ、一緒に味わえる興奮のひと時となりました。



9. 保健室 ～Mental Health Awareness Week～（保健部担当より）

イギリスでは毎年5月中旬に心の健康について考えたり取り組んだりするメンタルヘルス啓発週間が設定されています。学園でも毎年参加して、今年は朝のストレッチを取り入れ、また、カウンセラーによるアクティビティを行いました。



帝京ロンドン学園の Instagram は [コチラ！▶▶▶](#)

